



さかもと まみ
阪本 麻美

(●校3年)

「すみませんっ阪本先輩
片付けばかり
させちゃって…」

『いいのよっ
これがマネージャーの
仕事なんだから…』

『それより
練習に集中することっ
次の大会は
あんな情けない結果
残さないでよ?』

私の所属するテニス部は
大会を控えている

皆それぞれの目標や
夢に向かって頑張ってる

よっ

それを支えるのが
マネージャーとしての
私の仕事

頑張ってる皆の姿を
見ているのが
それを支えているのが
私は楽しい嬉しい

大変だけど
●校生活を
部活に捧げてきて
本当に良かったと
思ってる

でも今日は…

金曜日
19:25

「随分遅かったな
阪本」

いつもとは違う
仕事をしなくちゃ
いけない…

「無理言わないで…
片付けとか色々
あるんだから」

「これからは気を付けろよ
私の言う通りにできないと」

「お前もあの部活も
私の思い通り
なんだからな」

「わっ
わかってるわよ...」

「フフッ相変わらず
凄い乳だなw
部員も全員この乳に
釘付けだぞw♡」

「ちよっど！
そんなことまで
するなんて
聞いてないっ！」

ずん

「ラフッまさか
家に泊まるだけだと
思っていたのか？」
「お前は、この3日間
私の言いなりだ
言うことが聞けなきゃ
部活は停止だぞ？」

テニス部の大会を前に出された
理不尽な要求...
それはこの週末...2泊3日を
校長の家で過ごすこと

従わなければ
部は活動停止...
皆が楽しみにしていた
大会にも出場できない

「わっ分かった...
さっさと済ませてよね」

「聞き分けがいいな♡
では早速」

「ほほほw
この巨乳を
生で拝める日が
来るとはな♡」

「こんなもの
ぶら下げて
誘いおって♡」

こんな男の言いなりに
なるしかないなんて...
最低の週末

「さあこっちに来い
このエロ乳を使って
まずは奉仕して見せろ♡」

ぽん

「ほほっ
いいぞ阪本♡
中々うまいじゃ
ないかw」

「そのバカみたいに
デカイ乳が
役に立ったなw」



胸を使って
アソコをしごくなんて…
ホントに男って
悪趣味で最低

「いいぞっ
そのまま続けろっ
顔で受け止めるよ?」

クリ
ュ
ル
ル
ッ

「ふうっ♡
中々良い
パイズリだったぞ? w
さあ次は…」

「相手になったんだから
これで終わりでしょ?!
何でも思い通りになるとしたら
大間違いだからっ!!」

「調子に
乗らないでっ!!」

「ほう…
私にそんな態度を取るかw
なら理解らせてやるか
自分の立場をな♡」

それから
始まったのは…



終わらない
快樂調教だった…

「ラフフッ♡
もう全身どこでイってるか
わからんだろウ」

「私の思い通りにならないなら
このまま壊してやっても
構わんのだぞ？」

身動きも取れず
口も塞がれて
体のありとあらゆる所を
刺激されて

「そらっまたイケっ
二度と生意気な
回をきくなよ？」

イカされ続けた

「はっはっはWW
何言ってるんのか
わからんぞW」

「ほれっ
言いたいことがあるなら
言ってみろ♡」

もう私には…

カホのオオキ



耐えられ
なかつた…♡

あひ♡

「あんっ♡
この体勢やバいい♡
子宮つつくの
反則うう♡」

「最初は強気で
調子に乗るなつとが
言つてたクセに…」

「すっかりオスを喜ばせる
メス豚になったな♡麻美♡
自分から良い所に当っておつて♡」

やあ♡

まっ♡
おほ♡

「らつてえ…
こんなの知つちやつたらあ♡
女の子は誰だつて
こうなつちやうのお♡」

「はっはっ♡
お前が淫乱な
だけじゃないか♡
思つた通り逸材だつたな♡」

あ♡
おほ♡

ご♡
ご♡

「これからも
私の言つことを聞けば
毎晩抱いてやるぞ?」

「私のハメ穴妻になれ♡
麻美♡」

「あああん♡そんなことお
おちんち●スボスボされながら
言われちゃつたら…♡」

「わかりましたあ♡
私 阪本麻美はあ♡

旦那様のハメ穴妻として
一生ご奉仕いたしますう♡」

「これからもいっぱい
可愛がってくださいひゃい♡」

その日を境に
私は部活にも…
学校にも行かなくなつた…

だつて私にはもう
お仕える旦那様の
おちん●んがあるから♡

旦那様あ♡

♡

♡

たっ♡
ふり♡
だいて♡

フッ♡
フッ♡
えれ♡
ば♡
かり♡
め♡
♡

♡
♡
♡

♡
♡
♡







ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ぐわ

ジュジュ

ストップ...

ジュ



あひっ♡

やあ♡

おっおっ

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

旦那様♡

おっ♡

Low

Low